

生活の中で自信を持ち、金銭が活用できる子をめざした指導

矢野 怡

1. 対象児のプロフィールと研究の視点

(1) 対象児の奥態

M・H児，昭和45年8月13日生れ。早産（9ヶ月）。
中学部3年（男）。IQ 64（WISC）。

(2) 性格行動上の特徴

明るく素直。誰れとでも仲良くなれる楽しい雰囲気を持ち主。
知的な学習能力はかなりあるが活用の段階にまだ問題が多い。
また、調子に乗りやすく生返事や早合点でいい加減な言動もしばしばであるし自信のない言動も目立つ。

(3) 問題点と研究との取り組み

M・H児の行動を観察すると、読み書き計算といった知的学習には、かなり積極的な取り組みが見られた。計算能力で言えば、2ケタ+2ケタの暗算は、ほぼ可能で、筆算であれば少々ケタ数が増えても可能であり、3ケタ×2ケタのかけ算も可能である。しかし、種類のちがう硬貨が何枚かあるといくらになるか数えることができないことが多い。また、ほんの少しの失敗で自分の言動に自信をなくし、うまく伝言ができなったり、その場を離れようとした。

そこで、M・H児を中心に本学級の生徒達に農園で収穫した農作物を校内で教員を対象に販売に取り組みさせてきた。その中で個々の生徒にそれぞれに適切な課題を設定した。M・H児には会計をまかせいろいろな場合のお金の使い方を体験させながら金銭の扱いに慣れさせ生活の中で活用でき、自信を持って行動できる子をめざして研究に取り組んだ。

2. 研究への取り組み

指導に当たっては、次の2点を重点に指導を試みた。

○ 金銭の扱いに慣れる。

○ 見通しを持って金銭を扱おうとする態度を養う。

(1) 金銭の扱いに慣れるための実践例

1学期から2学期なかばにかけて農園野菜の校内販売の学習と取り組んだ。農園では、えんどう豆、アスパラガス、ナス、トマト、ピーマン等を育てており、それらを適宜収穫し販売するのである。100gあたりの値段は教師サイドで出しておいでやった。次に野菜の校内販売の実践を振り返る。

月	商品名	学習内容	販売の方法	M・H見のようすと手だて
5	えんどう	10円と1円 はかりで100gの読み方	200gずつ袋詰めをして校内に売り歩く	<p>はじめの時は意欲満々で取り組む。十円玉と一円玉が混じっていると計算できなく意欲を失う。</p> <p>100gあたりの値段を10円単位で設定</p>
6	えんどう	はかりで100gの読み方 100円玉と10円玉の等価関係	5月と同じ	<p>売り歩くことに慣れてきて販売時のことは使いが悪くなる。</p> <p>お店のようすを話し合いあいさつの言葉を考えさせる。</p> <p>扱う硬貨が十円玉と百円玉になり校内販売に再び自信を持つ。</p>
7	えんどう	はかりで10g単位の読み方 10円玉と1円玉の等価関係	えんどうは5月と同じ その他の作物は、はかり売り。	<p>一円玉も扱わせたいから100gあたりの値段を18円、23円に設定したりトマト、ナスのはかり売り。(100g 20円)</p>
8	トマト			<p>あいさつとまちゃんとで、「おいしーんです」などの言葉が出るようになった。</p>
9	ナス ピーマン		教室を売場にしたいと買に来てもらったこともある	<p>売り上げ金を数える時、10進位取りをせずに、机上にランダムに並んでいる硬貨を視覚的にいく組かに分けそれぞれの金額をたしているのよくまらがえていた。</p> <p>硬貨の種類ごとに分け10進位取りの方法を知らせる</p>
10				<p>まだまだお金を数える時は7~9月のようすと同じである。</p>

12	ほろん 草	袋づめをして 校内に売却 く	最後の校内販売では調子にのりすぎ て、自分達が家に持、て帰るように 伝えたものまで売、てしま、た。
----	----------	----------------------	---

以上が校内販売を通して金銭に慣れる指導の実践である。11月よりこの指導を深めるために数学の学習で「旅行に行こう」という単元を設定し、バス代や国鉄運賃を10円玉、50円玉、100円玉の3種類の硬貨を使い、いろいろな組み合わせで示したり、全費用を計算する学習に取り組んできた。農園野菜の校内販売以後、M・H見がお金を扱う上での変容をあげると、① 100円硬貨と10円硬貨が混ざっている時、まず100円玉と10円玉に分類した。② 100円玉7個と10円玉14個を机の上にランダムに並べて数えるように言うと、その中から「百円、二百円……七百円」と100円玉を取り出し、次に「十円が十個で百円だから八百円、あと四十円で八百四十円。」と10進位取りを考えながら数えることが指示されなくてもできた。

この数え方は校内販売の時には見られなかったもの下あり、金銭の扱いに慣れ、生活の中で活用できるということに一歩近づいたものと考えている。

(2) 見直しを持って金銭を扱おうとする態度を養う実践例

M・H見には、農園野菜の校内販売で金銭の扱いに慣れる指導と合わせ、少しでも先の見とおしを持って金銭が扱おうとする態度を養おうと指導した。その過程は、次のとおりである。

① 売り上げノートの記入方法の指導。(他の生徒にもこれは指導した。)(1学期より指導)

② 作物の成育メモ。M・H見はこれを「ノート」と言い、ホウレン草ノートとか、ニンジンノートとか呼んでいた。書き込む内容は、播種あるいは苗の定植の日付け、収穫予定日、タネの植段。このメモをとらせる指導をし何月何日に収穫ができるか予想させ、校内販売の予定を考えさせたいと考えた。

③ 売り上げノートと作物メモのタネの植段より校内販売の収支を計算する指導。(②と共に2学期に指導)

かぜいほ先生	ビーマンとス根	40円
西村仁美先生	ビーマン	20円
私どう先生	ビーマン	60円
西口先生	ビーマン	100円
こまか先生	ス根	20円
		合計 240円

ホーレンソウ	ニンジン
ホーレンソウ	種まき
10月14日	9月12日
収穫	収穫予定
12月21日	11月21日
	収穫
	12月21日

① 売り上げノート例

ほうれん草	1束 20円
ホーレンソウ	20円
ハネえみこ先生	30円
ハネいり先生	20円
山里先生	90円
ごうけい	240円
種まき	200円
えうけ	40円

② 作物成育メモ例。裏にタネの代金が書いてある。

③ ホウレン草の校内販売の結果より収支計算をした。M・H児は収穫予定日もしっかりと記憶していたが、自分からは、収穫や校内販売のことは言わなかった。教師の指示を受けて校内販売の作業に取

りかか、た。自分たちもいくらか家に持、て帰らせたので売、た量は少ないがそれでも40円の儲けが出たことに気づき、よろこんだ。

3 考察とまとの

野菜の校内販売を通してM・H児を指導してきた。その結果、次のような変容が見られた。

(1) 10円玉と1円玉あるいは100円玉と10円玉の混じ、たお金は正確に数えることができるようになった。

(2) 校内販売時に、代金や品物、おつりについて指示を受けなくても販売活動が可能になった。

態度面でも次のような変容が見られた。

(3) 校内販売時にのぼせることなく、接客態度が向上した。

(4) 行動に自信を持、てのびのびとしてきた。と言うのは、集会で生徒会長が欠席の時、急なことににもかかわらず代理をいやからずに引き受けた。

以上4点M・H児の大きな変容をあげてみた。現在M・H児は販売委員会で活動し、今までの学習を反復練習している。